

皆様、おはようございます。

冬枯れの茶色い山肌が、すっかりと緑に覆われ、新緑の瑞々しい緑が見られるようになりました。そしてその緑がだんだんと濃くなっていきます。

半そでで過ごせそうな初夏の陽気もあれば、雨風もあり、肌寒さありで、寒暖差の大きい季節、春のだるさの襲うこの時ですが、皆様お元気にお過ごしになられましたでしょうか。ぜひともご無理をなさらず、体調の管理に努めていただきたいと思います。

波乱と混乱との復活の朝の出来事から、その午後も尾を引いた、弟子たちの迷走ぶりを見てまいりました。

主の十字架の死に際し、気が動転して主の御言葉を思い起こせず、途方に暮れ、恐れ迷い、女性たちの目撃談にも耳を貸さずにたわ言と思っていた弟子たち。イースターの朝は、深い混乱の朝でした。

その弟子たちに主イエス様は、エマオの途上で、またペテロにと、ひとりひとりに出会い、彼らの怖がり、理解できず混乱する、恐怖と理解不能の霧の中で凍え切った心を温め、忘却と不信仰の氷を割って弟子たちを解き放ってくださいます。

24:35 そこでふたりの者は、途中であったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。

24:36 こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕

女性たちの証言に対して全く耳を貸さなかった弟子たち。しかしエマオの途上の二人への主の現われ、ペテロに現れた出来事を聞くや、それでもまだ半信半疑であった弟子たちの真ん中にイエス様は立たれ、「やすかれ」と語られたのです。

24:37 彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

ここにもまだ恐れと驚き、心の底からびっくりして、ガタガタと震える弟子たちの姿が記されています。そこに突然に幽霊のように主が現れたということに動揺したのでしょうか。彼らが本当に主が復活なさったと心の底から信じていれば、そこまで驚く必要はなかったのではないのでしょうか。

私たちがまた、復活の主を信じているのでしょうか。その理解できない時、判別困難で先行きが定かでない時。何が起っているか分からずに、五里霧中という時。人生の大嵐の時、孤独な時、弱い時、病の時、争いの時、喪失の時、悲しみの時…。私たちに慰めようとしてせっかく近づいてこられる主に、疲れのあまり「幽霊だ」と驚いた弟子たちの姿は過去にもあ

りました。

マタイ 14:22 それからすぐ、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。

14:23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。

14:24 ところが舟は、もうすでに陸から数丁も離れており、逆風が吹いていたために、波に悩まされていた。

14:25 イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。

14:26 弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。

14:27 しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われた。

14:28 するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください」。

14:29 イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。

14:30 しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、「主よ、お助けください」と言った。

14:31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。

14:32 ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。

14:33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。

14:34 それから、彼らは海を渡ってゲネサレの地に着いた。

「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」という主のお言葉に安堵し、また本当にイエス様なのかを試して水の上さえ歩かせていただいた出来事があったのに、弟子たちはまたもお近くにおられる愛する主に対して幽霊だと身震いして恐れるのです。本当に、私たちもまたは信仰薄い者だなあと、彼らの事ばかりではない、私も同じだと、つくづく思います。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。

24:40 [こう言って、手と足とをお見せになった。]

主が私たちと共におられるのに。主は死に打ち勝って凱旋され、勝利され、復活され、私たちと共におられるのに。どうして私たちはおじ惑っているのでしょうか。どうして疑ったりするのでしょうか。

しかしそんな信仰薄い弟子たちのために、主は何度も現れ、「やすかれ」と言葉を語りかけて下さいます。

1 ヨハネ

1:1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について――

1:2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである――

1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。

1:4 これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。

1 ペテロ

1:8 あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいけなけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。

1:9 それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。

24:40 [こう言って、手と足とをお見せになった。]

まさしく私だ。わたしの手や足を見なさい。触ってみなさい。こうして主は弟子たちに手や足を見せて下さいました。

24:41 彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っていると、イエスが「ここに何か食物があるか」と言われた。

24:42 彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、

24:43 イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。

イエス様の数々のお計らいとお現われ、語られる言葉によって、ついに弟子たちの喜びが爆発します。

「彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っている」のです。

ぶるぶると身を震わせるような恐怖と悩み、悲しみがありました。喪失感がありました。うまく行っていない気持ちが多くありました。しかし今は、イエス様のお働きかけによって、「彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っている」状態にあるのです。

喜びがはちきれんばかりで現実のものとは思われず、目を白黒させて、夢見心地でいる弟子たち。宝くじの1等賞が当たって、信じられないという気持ちのような、しかしそれにもはるかに勝る出来事が弟子たちの前にはありました。命を救い、すべてよきもので満たし、いつも一步一步を導き守り抜いて下さる方が目の前におられるのですから。

「彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っている」そういう幸いを人生の中に感じる事が出来るということは、何という幸いなことでしょうか。しかも信じる者にとっては、それは一度きりの事ではありません。「彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っている」という幸いな出来事が、人生の中で何度でも繰り返されるのです。

イエス様は弟子たちが納得できるように、信じる事が出来るようにと、身を低くされ、もはや復活の身体には魚を召し上げる必要も特には無いのではないかとも思うのですが、弟子たちのために美味しそうに食べて下さったのではないのでしょうか。そしてご自分が幽霊ではない、幻ではないことを示してくださったのでした。

この後イエス様はまたお姿が見えなくなりましたが、ガリラヤ湖で釣れた、骨ばった魚は、イエス様が魚を召し上がった後も、その骨は残っており、その骨を見るたびに、ああこれがイエス様の召し上がった魚の骨だと信じ続ける事が出来たに違いありません。肉であれば、後に何も残らず、最初からからの皿だったのではないかというような錯覚が起こったかもしれません。弟子たちはそのイエス様が目く上がった後のこったこの骨を大切に取っておいたかもしれません。

因みにギリシャ語で魚を意味するギリシャ語は、ivcqu,j (イクスース)であり、

この5文字のギリシャ語のアルファベットを頭文字として、初代教会の信者たちは、次のような合言葉を使っていました。それは、「イ」から始まる言葉に「イエス」、「ク」にあたる言葉に、「キリスト」、「ス」にあたる言葉に、「セオス」すなわち「神」、「ウー」にあたる言葉に「ヒュイオス」すなわち「息子」、最後の「ス」にあたる言葉に「ソーテール」すなわち「救い主」を当てて、「イエス、キリスト、神の、子、救い主」という暗号のような合言

葉を語り、魚のマークを掲げて、迫害から逃れて互いに信者であることを表明し合ったという出来事がありました。

弟子たちにとってイエス様が魚を召し上がったということは、それはそれはいつまでも記憶に残る、印象深い恵みの出来事であったことが分かります。

24:44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。

24:45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて

24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

結局はみ言葉のとおりになる、モーセと預言者と詩編に書いてある、私に関する出来事は必ずことごとく成就するから、聖書を尋ね求めなさい。聖書を悟りなさい。心の目を開いて、聖書にあたりなさい。困難の時、五里霧中の時、悲しみの時、途方に暮れたとき、聖書の中から私を尋ね求めなさい。私が何をして、何を語ったか、最後にどうなったのかを思い出しなさい。苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。
48 あなたがたは、これらの事の証人である。

イエス様は、聖書を悟るために弟子たちの心を開かれ、この、聖書全巻にわたってイエス様に関して書かれていることこそが大切であることを語られました。そのことは必ずことごとく成就すると語られました。これこそがエマオの途上で二人の弟子たちの心を燃やしたその御言葉のお話でした。

私たちは心冷え切った時、悲しみの時、悟りのない時、信じることに疲れてしまった時、聖書を尋ね求めます。そして聖書の中に記されている、イエス様に関する出来事はことごとく成就すると知ります。神様は私たちのための救いをイエス様によってことごとく成就してくださいました。何の留保も物惜しみもせずに、「キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえ」られました。「そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる」のです。そして私たちもまた、「これらの事の証人」なのです。

2 コリント 8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すな

わち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

1 ペテロ 2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

イザヤ 53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

24:49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。

聖霊を受ける約束です。主の復活の7週の後、ペンテコステの時が来ます。

都にとどまり続ける。主を十字架につけた支配者たちが君臨するエルサレムに居続けることは(エマオに逃れて行った弟子たちを思い出しますが)、危険や苦しみの伴ったことに違いありません。それでも何でも主のお言葉に従う時、主のご栄光の御業があらわされます。祭りの時、霊が注がれ、習ったこともない外国の言葉で語り出し、人々が命名自分の生まれた国の言葉で神様の御業をあがめる言葉を聞きました。教会が力強く生まれ、世界宣教が始

まりました。

47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

48 あなたがたは、これらの事の証人である。

御言葉はことごとく成就します。

イエス様がルカ5章で網を下ろしなさいと言われ、それに従えば大漁の奇跡が訪れました。同じく5章では、脳卒中(中風)で歩けなくなった人に主が命じると床を担いで歩いた出来事がありました。

ラザロの亡骸に命じられれば死体がふたたび命を得て墓から出てきます。カナの婚礼にて、言われた通りに水を世話人に運べば、水がぶどう酒に変わります。

病の部下に対して、「ただお言葉を下さい」との願いにこたえて、遠隔地から癒しを命じられればローマの百人隊長の部下は癒されました。(マタイ8章・ルカ7章)

生まれつき目の見えない人に対して主はこう語られました。「シロアム(つかわされた者、の意)の池に行って洗いなさい」。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行きました。(ヨハネ9章)

主のお言葉は力強く、御言葉はことごとく成就します。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

24:50 それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。

24:51 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕

24:52 彼らは〔イエスを拝し、〕 非常な喜びをもってエルサレムに帰り、

24:53 絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。

イエス様の、弟子たちに対する祝福の祈りがあり、弟子たちは非常な喜びをもってエルサレムに帰り、絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。この出来事は、迫害の悩みの中にあつた弟子たちにとっては容易なことではなかったはずです。しかし祝福を受けた彼らには非

常に大きな喜びがありましたから、彼らからは恐れが取り除かれました。
そして絶えず宮にいて、神をほめたたえていた弟子たちのためには、主がまさに語られた通り、約束された聖霊が注がれようとしていたのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

「喜びのあまりまだ信じられない」、そして不思議がる、という人生の祝福に預かることのできる幸せを感謝いたします。心の疑いを抱かずとも良い、信じる事が出来る幸せ、まさしく救い主が私たちの前にいつもおられ、手を伸ばせば触れることが出来るところにいつもおられるという幸いに感謝いたします。様々な困難の中にあります私たちの新たな1週間も変わらない祝福の内に導き、「平和が、平安があるように、やすかれ。」と語りかけて下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン